

ほたるいし

## 螢石 Fluorite



分類：ハロゲン化鉱物  
 化学組成：CaF<sub>2</sub>  
 産地：大分県豊後大野市  
 緒方町 尾平鉱山  
 横幅：約10cm  
 GSJ M01045

“螢石”とはとても綺麗な鉱物名ですね。加熱すると蛍のように光を放つ様子<sup>(※1)</sup>からその名が付けられたという説が一般的です。紫外線を当てると光るものもあります。

螢石はカルシウム(Ca)とフッ素(F)からなるハロゲン化鉱物です。純粋な螢石は、無色または白色で、わずかな希土類元素<sup>きどるいげんそ</sup>を含むと青・緑・紫・黄色、まれにピンク・赤など多様な色を帯びます。結晶は立方体に成長することが多いですが、規則正しく割れる劈開<sup>へきかい</sup>という性質を持ち、八面体の結晶となる場合もあります。

第4展示室のハロゲン化鉱物コーナーでは、ピンク色の螢石(写真<sup>(※2)</sup>、大分県尾平<sup>おびらこうざん</sup>鉱山産)を観察できます。この螢石は水晶を覆っていることから、地下の割れ目に出来た空洞(晶洞)で水晶の後に出来たことがわかります。多金属(錫・銅・鉛・亜鉛など)を産出した尾平鉱山は、マグマが固まる際に生じた熱水から出来た鉱床とされ、この螢石は水晶とともにその熱水から結晶化しました。その他、第2展示室の蛍光鉱物コーナーでは、螢石及び他の蛍光鉱物が紫外線照射によって光る蛍光現象を見ることができます。

地質標本館で螢石の様々な姿を観察してみましょう。

(※1) 螢石を実際に加熱すると危険なので、加熱はしないでください。

(※2) 展示とは異なる角度で撮影しております。

(地質標本館室 中村由美〔文〕、兼子尚知〔写真〕)